

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170207883		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家 (第一ユニット)		
所在地	札幌市東区北11条東3丁目1-10		
自己評価作成日	令和5年11月5日	評価結果市町村受理日	令和5年12月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170201883-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスが5類になったこともあり、行事やレクリエーションを盛んに行っております。紅葉見学や少人数での外食レク、BBQなどを行っております。また、地域の夏祭りなどにも参加し、地域との繋がりを持てるよう、努めています。ホーム全体で、ケアの向上を目指し、職員の知識・技術向上のため研修機会を多く設けております。法人研修や事業所での職員による研修会、外部研修の参加の機会を多く設けております。時には役職者から個々の働き方や、今後の目指すものなどの確認を行い、それぞれにあった取り組みなどを行い、チームレベルの向上にも繋がっております。感染症への対応、緊急時の対応など、いかなる時も対応出来るよう月に1回、実演してもらうなどの取り組みを行い、緊急時に備えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ハートの家」は、地下鉄北13条東駅から徒歩で5分程の住宅地に立地している事業所である。近隣にはコンビニエンスストアや総合病院、商業施設もあり生活の利便性に優れている。各ユニットには季節感のある手作り装飾が施されており、家庭的な温もりが感じられる。運営推進会議は、書面会議の議事録に施設内研修の資料を添付して情報提供するとともに、家族から寄せられた意見なども議事録に記入している。毎月の勉強会は各職員が担当し、テーマに沿った資料を自分で準備して講師役を担うなど、職員の育成につながるような取り組みを行っている。センター方式シートを活用し、日々職員間で情報交換しながら利用者の状況を把握し、その方に応じた最適なケアを提供している。外出支援の面では、散歩や個別支援の外出、旭山記念公園や藻岩山展望台など全員で出かける機会も多く設けている。災害対策では、主に夜間を想定した火災や地震、水害などの避難訓練を消防設備会社や地域住民、家族の参加を得て年6回実施している。管理者は、職員の意見や提案を運営やケアに反映させるとともに資格取得のサポートや研修を計画的に行い、各職員の資質向上を目指して熱心に取り組んでいる。職員の優しく丁寧な対応や声かけは、利用者と家族の安心と信頼につながっているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や各ユニットに掲載している。 全体会議でも理念の確認を行い、職員が理念を把握しているか、実践できているか確認している。	運営方針の中に、地域の人や自然とふれ合いながら、一人ひとりが地域とつながり穏やかで安心できる暮らしを共に創るという地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が含まれている。全体会議で、基本理念とともに運営方針を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスが5類に変更になったこともあり、地域の行事への参加や、運営推進会議にご家族様や地域住民をお呼びし、開催している。	神社のお祭りに出かけたり、散歩で近隣の方と話をしている。花の差し入れを受けたり、不要になったおむつをもらうこともある。近隣の幼稚園や保育園に働きかけ、今後の交流につなげていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて職員による勉強会の内容をご報告している。 地域の方から質問などがあつた際は、都度ご対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議や議事録などで、ご意見、ご要望を収集している。 ご要望等、あれば都度、ご対応している。	5月から数名の家族も参加して対面での会議を開催している。書面会議の時も議事録に資料を添付し、多くの情報を提供しながら充実した会議を開催している。参加できない家族の意見も普段から聞き取り、議事録に記入している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告書を提出し、ご意見を頂戴している。 また、新規入居の際、必要時にはケースの相談を行っている。	事故報告書の提出で市役所を訪問したり、入居者の金銭管理について区役所に相談したことがある。 保護課の職員が来訪する機会も多く、普段から情報交換して連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度、身体拘束委員会による勉強会を開催している。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備している。身体拘束の勉強会と委員会を2か月ごとに実施し、禁止行為11項目も定期的に確認している。勉強会の内容が分かりやすいように記録を整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会にて虐待防止の勉強会も開催している。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様が金銭管理が困難な場合、財産管理委託を活用している。 また、入居相談時に金銭管理が困難な場合は、財産管理や後見人のご説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書の説明を行っている。 制度改正や加算変更の場合は、都度ご説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。 運営推進会議にてご意見・ご要望も頂戴している。	面会時や電話で利用者の様子を伝えて家族の意見や要望を聞き取り、パソコンと個別の家族連絡表に記録している。毎月、個別の「ハート便」を発行し、写真にコメントを添えて家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で職員全体から議題を集めている。 また、個別の面談などで情報を収集し、役職者で共有している。	会議や日々のケアの中で職員の意見や提案を聞き取り、車いす用の体重計や乾燥機を新たに購入している。各職員が会議で検討して欲しい内容を事前に書面で確認している。管理者は、個々の職員に合わせた面談も随時行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の目指すものや働き方を面談などで聴取し、それぞれに合った取り組みを提示している。 また、家庭環境にあった働き方をすり合わせし、実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修参加の機会を多く設けている。 また、働きながら資格を取得できるよう、キャリアアップ制度を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームの職員を法人内の施設へ実習に行く機会などを設け、他事業所の職員との関係性構築やスキルアップ向上に活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面会を行い、入居についての不安などを聴取し、信頼関係を構築できるよう努めている。 入居前にご家族様へセンター方式をお渡しし、情報の収集にご協力いただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学時にお困りごとや不安を聴取している。 入居が決まった際も、連絡を密に行い、入居前に関係性を構築し、相談しやすい関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時に必要な時には、事業所内にある居宅支援事業所の職員にも同席していただき、必要なサービスの情報を提供している。 金銭管理や後見人、福祉用具のレンタルなどの情報もお渡ししている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様からの希望などを収集する機会を設けている。 それぞれの残存能力を活用し、一緒に作業を行っていただけるよう機会を設けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一回、日ごろのお写真を郵送し、気になる事があれば、電話や面会時などにご相談していただけるよう、環境整備をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防に留意しながら、働いていた頃の同窓会への参加や、お友達との電話や面会を行っていただいている。	以前の職場関係の知人と電話や手紙で交流を継続している方もいる。職員支援の下、家族も一緒に個別レクで利用者の出身地まで出かけたリ、ドライブで以前住んでいた家を見に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や、それぞれの機能障害を理解し、職員仲介の基、関われる環境作りをしている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にも必要に応じて、相談業務を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や、ご家族様から情報収集を行い、できるだけご本人様の意向に沿ったサービスを提供できるように努めている。	会話が可能な方も多いが、入居当初で遠慮しているような時は入浴時などに話を聞いて思いや意向を把握している。センター方式シートを定期的に更新し、趣味や嗜好を具体的に記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にセンター方式の記入をお願いしたり、以前利用していた施設からの情報を基に把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	発言や行動を記録し、変化に気付けるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録やご本人様、ご家族様の要望、様子から職員間で検討している。	利用者担当職員の評価を基に全職員で話し合い、3か月ごとに計画作成担当者が介護計画を作成している。家族に利用者の様子を細かく伝えて具体的に意向を聞き取り、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や申し送りノートを活用し、情報の共有、実践をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	危険でなければ何でも取り入れ、ニーズに対応しているか、反応はどうかを精査し、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加し、楽しい暮らしをしていただけるよう、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の意向を確認し、受診していただいている。	かかりつけ医を継続して受診している方もいるが、ほとんどの利用者は協力医の往診を受けている。専門医を家族と受診する時は口頭で健康状態を伝えている。受診状況は病院ごとに個別に記録している。	

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や何か気になる事があった際に連絡、相談し日々のケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院と情報共有し、看護添書等を施設での退院後の生活に活かしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の見解の基、ご家族様には看取りの経過についてご説明し、同意の基、医療と連携しケアをしている。	利用開始時に「重度化対応に関する指針」に沿って事業所の方針を説明し、緊急時対応同意書をもっている。体調変化に応じて家族の意向を再確認し、主治医の判断の下に看取りも実施している。今年度も2名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、AEDの使用法等、定期的に訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を含め、地域の方に協力をいただき、定期的に避難訓練を行っている。	主に夜間の各種災害を想定した避難訓練を年6回行っている。うち1回は消防設備会社の協力を得ており、地域住民や家族も参加している。簡単な救命講習を事業所内で実施している。	感染症の収束状況を見ながら、各職員が外部で実施している救命講習を計画的に受講するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やマニュアルを通じて、都度再認識し、実践している。	毎月の勉強会や法人研修で接遇や言葉かけに関して学んでいる。各職員に合わせた研修も取り入れている。書類は事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な範囲で本人の思いを尊重し、自己決定していただけるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人にあったペースで生活していただけるよう、希望や様子を伺い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身でお好みの服を選んでいただいたり、季節に合った服を準備する等、支援している。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けなど、可能な範囲で関わっていたりしている。	週5回は配食サービスを利用している。事業所で調理する際の献立は利用者の希望を取り入れている。個別の夕食支援の他、プリン、おはぎなどの手作りのデザートも食事の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減や医療機関との連携にて、栄養状態を把握し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助、定期的な歯科往診にてケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力に合わせた排泄方法にて支援し、排泄パターンを把握し、定時での声掛け、誘導、パット交換を行っている。	排泄チェック表に個別に記録している。利用者の仕草を見て声かけ誘導を行うことで失敗を減らしている。また、職員同士で利用者の状況について話し合い、適切な排泄用品を使用することにより排泄の自立と支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や適度な運動をしていたり、できるだけ自然排便を促すよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に沿った支援をし、拒否がある場合は、タイミング、職員を変える等、臨機応変に対応している。	毎日入浴が可能で、日中の時間帯を中心に1人当たり週2～3回の入浴を行っている。習慣や体調によりシャワー浴の場合もある。以前行っていた近隣の銭湯での入浴を検討するなど、入浴を楽しむことができる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や覚醒状態を確認し、臥床の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	追加や変更時に情報を共有し、様子観察、記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事を把握し、役割を設け、充実感、達成感を感じていただいている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や園芸作業、ドライブなどの外出レクを行い、気分転換を図っている。	近隣の神社やお寺など事業所周辺の散歩を行っている。個別の買い物支援や職員に同行して郵便局に行くなど、日常的に外出している。河川敷での花見、紅葉見学、展望台へのドライブなど外出行事も充実しており、外気に触れる機会を積極的に設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方は、職員と一緒に支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で電話や手紙が困難な方は職員が仲介している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿った飾り付けや掲示物を貼るなど過ごしやすい環境づくりをしている。	リビングはユニットごとにテーブルの配置を工夫し、クリスマスツリーなど手作りの装飾が施されている。加湿器やエアコンが設置されており快適に過ごすことができる。ぬいぐるみを飾り、壁面には利用者の写真や作品が掲示されており、家庭的で温かみを感じられる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の位置の調整など、一人ひとりの性格に合わせた共有空間にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただいたり、写真やご本人様が作った作品などを飾っている。	クローゼットが備え付けられている居室に、以前から使用しているベッドやタンス、椅子などの家具、好きなテレビなどを持ち込んでいる利用者もいる。家族写真も飾られており、個々の生活に合った居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差やつまずきやすい物をできるだけなくし、自立した安全な生活を送れる環境づくりをしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170207883		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家 (第二ユニット)		
所在地	札幌市東区北11条東3丁目1-10		
自己評価作成日	令和5年11月5日	評価結果市町村受理日	令和5年12月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201883-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスが5類になったこともあり、行事やレクリエーションを盛んに行っております。紅葉見学や少人数での外食レク、BBQなどを行っております。また、地域の夏祭りなどにも参加し、地域との繋がりを持てるよう、努めています。ホーム全体で、ケアの向上を目指し、職員の知識・技術向上のため研修機会を多く設けております。法人研修や事業所での職員による研修会、外部研修の参加の機会を多く設けております。時には役職者から個々の働き方や、今後の目指すものなどの確認を行い、それぞれにあった取り組みなどとし、チームレベルの向上にも繋がっております。感染症への対応、緊急時の対応など、いかなる時も対応出来るよう月に1回、実演してもらうなどの取り組みを行い、緊急時に備えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や各ユニットに掲載している。 全体会議でも理念の確認を行い、職員が理念を把握しているか、実践できているか確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスが5類に変更になったこともあり、地域の行事への参加や、運営推進会議にご家族様や地域住民をお呼びし、開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて職員による勉強会の内容をご報告している。 地域の方から質問などがあった際は、都度ご対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議や議事録などで、ご意見、ご要望を収集している。 ご要望等、あれば都度、ご対応している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告書を提出し、ご意見を頂戴している。 また、新規入居の際、必要時にはケースの相談を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度、身体拘束委員会による勉強会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会にて虐待防止の勉強会も開催している。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様が金銭管理が困難な場合、財産管理委託を活用している。 また、入居相談時に金銭管理が困難な場合は、財産管理や後見人のご説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書の説明を行っている。 制度改正や加算変更の場合は、都度ご説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。 運営推進会議にてご意見・ご要望も頂戴している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で職員全体から議題を集めている。 また、個別の面談などで情報を収集し、役職者で共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の目指すものや働き方を面談などで聴取し、それぞれに合った取り組みを提示している。 また、家庭環境にあった働き方をすり合わせし、実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修参加の機会を多く設けている。 また、働きながら資格を取得できるよう、キャリアアップ制度を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームの職員を法人内の施設へ実習に行く機会などを設け、他事業所の職員との関係性構築やスキルアップ向上に活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面会を行い、入居についての不安などを聴取し、信頼関係を構築できるよう努めている。 入居前にご家族様へセンター方式をお渡しし、情報の収集にご協力いただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学時にお困りごとや不安を聴取している。 入居が決まった際も、連絡を密に行い、入居前に関係性を構築し、相談しやすい関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時に必要な時には、事業所内にある居宅支援事業所の職員にも同席していただき、必要なサービスの情報を提供している。 金銭管理や後見人、福祉用具のレンタルなどの情報もお渡ししている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様からの希望などを収集する機会を設けている。 それぞれの残存能力を活用し、一緒に作業を行っていただけるよう機会を設けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一回、日ごろのお写真を郵送し、気になる事があれば、電話や面会時などにご相談していただけるよう、環境整備をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防に留意しながら、働いていた頃の同窓会への参加や、お友達との電話や面会を行っていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や、それぞれの機能障害を理解し、職員仲介の基、関われる環境作りをしている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にも必要に応じて、相談業務を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別にお話をお聞きし把握に努めている。その方の意向を最優先し、他機関と調整することがある。ご本に様から把握が困難な場合には、ご家族様に協力していただくこともある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集のため、ご本人への聞き取りやご家族様が知りうる情報を書面で頂いている。現在のご本人様の姿だけでなく、過去の暮らしや性格等にも重点を置いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の総合記録や申し送りノート、口頭での申し送りにより、24時間途切れることなく支援している。日々の小さな変化や言動も記録にして共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてご家族様、主治医から意見をお聞きし、より良いサービスを提供できるよう、内容を検討している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録シートの使用し、日々の様子や特変、週単位での様子を記録している。また、申し送りノートを活用し、より細かい情報を記載して職員間で共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望や必要性に応じて、個別に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において地域参加は自粛していたが、徐々にではあるが、地域のお祭りに参加するなど地域行事やイベントに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診内容については必要に応じてご家族様へフィードバックしている。他科受診についてはご家族様に対応をお願いしているが、ホーム対応の場合は経過と結果をご家族様へお伝えしている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護、往診、歯科往診含め、相談内容を取りまとめ確認している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師、看護師、相談員と情報共有を行っている。特に退院後のバックアップ体制の確認や、主治医への情報提供と協力体制の調整を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の意向については主治医の見解を確認してからご家族様へ聴取している。終末期の方針が定まっていないご家族様に対しては、急がせずに考えるきっかけ作りとして早期に説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応については、AED操作、心肺蘇生法を研修で実践している。今後も繰り返し訓練を継続する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	腸内の方々や消防団の協力で定期的に訓練を実施している。現在は、感染予防のため不定期で行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の人格を尊重するよう意識している。継続的に声掛けやコミュニケーションについての勉強会を実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活に支障のない範囲で自己決定や意思を尊重し支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の日々の体調や体力を把握し、興味のある事にお誘いしたりレクリエーションへの参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中で整容に気を配っている。整髪、洗顔、訪問理美容。外出時の衣類の選定は職員と共に選んでいる。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の味の好みや食べやすい形状に合わせて提供している。ご入居者様から味やメニューのオーダーがあれば好みの味に近づける様協議して提供している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的に食事量や水分量が少ない入居者様には、無理をして提供せず、医師と相談し栄養補助食品を提供している。水分は一度に多く摂取するのではなく、一日を通してこまめに摂取していただけるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方にはお声がけをさせていただき行っている。歯磨き粉を付ける、コップに水を入れる、ガーグルペースを準備するなど、支援が必要な方については個々で必要な支援を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を最優先としている。個々の排泄間隔を把握し事前にお声がけやトイレ誘導を行うことで、汚染の頻度の評価を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	活動性の向上や乳酸飲料、腹部マッサージなどにより、極力下剤を使用せずに排便ができるよう支援を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のお声がけをさせていただき、拒否がある場合には無理をせず日を改めるなどの対応を行い、気分を害されることがないように意識し支援を行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や体力に合わせて休息いただいている。夜間は静かな環境を作り、安心して眠れるよう居室や廊下の明るさ、音などに配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を把握できるよう、個別ファイルにて薬内容を管理している。服薬に変更があった場合には、お薬情報シートの活用や、受診記録シートに記載・更新行い、職員全員が確認・把握できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみを日常的に行っている。また、畑の水やりやレクリエーションを企画し、楽しみや気分転換を図れるようにしている。			

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に沿って定期的な買い物や個々での外食レク、ドライブに行ったりしている。また天気の良い日にはホーム周辺の散歩にも出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様預り金として管理しているが、ご本人の希望に応じて買い物をしている。領収書と残高明細書は毎月まとめてご家族様に郵送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にお手紙を書いたり、電話の発信受信は職員が行うが、ご入所者様の希望があれば、電話でお話ができる様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの明るさや清潔感に配慮している。夏冬通して居心地の良い室温に保てるよう、換気を行っている。季節に応じた装飾や置物など飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にテーブル、ソファを置き一人で過ごしたり、仲の良い入居者様同士で談話できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出入りに支障のない範囲でご本人様の馴染みの家具など置いて頂いている。テレビ、冷蔵庫、仏壇、お供え物などについては職員が介出し出し入れさせて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下、トイレに手すりの設置。浴室には自動リフト浴の設置を行い、安全で快適に過ごして頂けるようにしている。車椅子も予備を設置しており、必要に応じて併用できるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ハートの家

作成日：令和 5年 11月 28日

市町村受理日：令和 5年 12月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナウイルスで地域との関わりが減ってしまい、交流が途絶えてしまっている。	近隣の幼稚園や保育園との関わりや、地域でのイベントへの参加の機会を設けていく。	町内の副会長様に仲介に入っていただき、幼稚園や保育園との関わりを設けていただけるよう機会を作っていた。地域包括支援センターに近隣でのイベントを確認し、ご入居様との参加の機会を設けた。	済
2	35	災害対策として、避難訓練の実施や会議での勉強会を行っているが、コロナウイルスの影響により、外部の研修や救命講習への参加が乏しい。	職員に災害対策に向けて、専門的な知識を得る機会を設ける。	コロナウイルスや他感染症の流行にもよるが、外部の研修や講習会への参加。	未定
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。